

ポスター発表 午後

2月9日(金) 13:00~14:00 体育館

<提案のポイント>

①

中学校 キャリア教育（特別活動）
[総合教育センター研修]
中学生のキャリアプランニング能力の向上を
目指した生活記録ノートの活用の工夫

横手市立横手明峰中学校 教諭 渡部 文子

これまで勤務した中学校では、生徒が生活記録ノート等を活用している。これには生徒の様々な活動がポートフォリオ化されており、秋田県作成のキャリアノートと関連付け、その日常版として活用することで、キャリアプランニング能力の向上を図ることができるのではないかと考えた。PDCAサイクルを重視した記入の工夫と、生活記録ノートを生かしたキャリアカウンセリングの取組を試みた結果、キャリアプランニング能力の向上が見られた。

②

小学校 道徳
[総合教育センター研修]
小学校第1学年における道徳的価値についての
理解を深めるための指導の工夫
～道徳科と読書の時間の読み聞かせを組み合わせ
た学習の構想～

八郎潟町立八郎潟小学校 教諭 三浦千華子

学校生活の入門期である小学校第1学年において、道徳的価値についての理解を深めるためには、内容項目を繰り返し取り扱い、価値のよさや実現した具体の姿、実現する難しさなどを考えていくことが重要である。そこで、他の教育活動との関連という視点から、読書に着目し、道徳科と読書の時間の読み聞かせを組み合わせた学習を構想し行った。これにより、道徳的価値について自分との関わりで考え、理解を深めることにつながった。

③

中学校 道徳
[総合教育センター研修]
中学校道徳科におけるルーブリックを取り入
れた生徒の変容を見取る評価の工夫

横手市立十文字中学校 教諭 佐々木雅典

「特別の教科 道徳」では、児童生徒のよさを認め励ます評価が求められている。しかし、多くの教師が何をどのように評価すればよいのか不安を抱えている。そこで、授業前と授業終末の生徒の記述をルーブリック評価し変容を見取った。また、記述が苦手な生徒への配慮として質問紙を活用した。さらに、必要に応じて面接での聞き取りを行った。これらの取組により、記述が苦手な生徒も含め、全ての生徒の変容を適切に見取ることができた。

④

中学校 数学
[総合教育センター研修]
思考を可視化する振り返りを通して、学びの意識
を高める中学校第3学年数学科の授業づくり

仙北市立生保内中学校 教諭 阿部 匠

数学の学びの意識を高めるには、生徒の実態から、新たな気づきや思考の変容等に関する視点を含む振り返りが必要であると考えた。そこで、付箋紙の色を変えながら、授業の中で疑問やひらめいた考えを書き残すという実践を行った。生徒は、付箋紙に考えや疑問を可視化して振り返ることにより、思考の過程における自らの変容を自覚したり、数学のよさを改めて認識したりすることにつながり、学びの意識が高まった姿が見られた。

⑤

中学校 保健体育
[総合教育センター研修]
中学校保健体育科における生徒が主体的に課
題解決に取り組むための単元指導の工夫
～「分かる」と「できる」を結び付ける「つ
まづきの映像資料」の活用を通して～

湯沢市立湯沢北中学校 教諭 打川 淳

保健体育の学習の中で「見本となる姿」を資料として提示する機会が多い。しかし、目指すゴールの姿はイメージできても、必要な技能のポイントに気付くことは難しいと感じる。そこで生徒に起こり得る「つまづきの姿」と「見本となる姿」を比較し課題に気づき、伝え合う活動、技のポイントを試す活動を取り入れた。その結果、生徒は仲間や自らの課題に気づき、相互に具体的なアドバイスを行うなど、主体的に課題解決に取り組む力が向上した。

ポスター発表 午後

2月9日(金) 13:00~14:00 体育館

<提案のポイント>

⑥

中学校 国語
[総合教育センター研修]
中学校国語科における「伝えたい事柄を書く力」を育てる指導の工夫
～広告文の構成分析を通して～

秋田市立将軍野中学校 教諭 佐々木真知子

国語科の学習において、集めた情報を整理し、伝えたいことが分かりやすく伝わるように、文章の構成を工夫して書く指導が求められている。研究協力校では、伝えたいことをもってはいるが、書き表せないと悩む生徒も多い。そこで、本研究では、広告文を用い、その構成分析から得たことを自己の文章表現に生かす活動を行った。生徒は、書くための材料を整理することにより、伝えたいことが明確になり、書く力の向上が見られた。

⑦

特別支援学校 防災教育
[総合教育センター研修]
肢体不自由児のための防災意識を高める「災害安全指導プログラム」の作成
～地震を想定した体験的な学習を取り入れて～

県立秋田きらり支援学校 教諭 伊藤 和美

肢体不自由児への防災教育においては、落ち着いて支援を受けるといった態度についての指導が中心となり、「自分の命は自分で守る(自助)」という意識を育むことに課題があった。そこで、防災意識を高めるために「災害安全指導プログラム」を作成し、体験的な学習を行った。その結果、身の回りの危険を予測したり、防災用品に関心をもったりするようになり、自助の視点を取り入れた肢体不自由児への指導例を提案できた。

⑧

特別支援学校 生徒指導
[秋田大学大学院研修]
知的障害特別支援学校高等部専門学科における生徒指導の現状と求められる対応

県立大曲支援学校 教諭 小松 良平

近年、特別支援学校高等部の生徒数が増加し、軽度知的障害がある生徒への生徒指導の在り方が重要な課題となっている。質問紙調査の結果、多くの専門学科において、軽度知的障害がある生徒の在籍率が高く、生徒指導上の問題に直面していることが示唆された。この現状から、実態に応じた教育課程の編成や、関係機関との連携の充実などが求められた。また、高等学校がもつ知見を共有し、従来の特別支援学校の枠組みにとらわれない生徒指導の充実が望まれた。

⑨

小・中学校 特別活動
[株式会社わらび座研修]
民間企業の経営と顧客への関わり方
～わらび座教育旅行・踊り教室を中心として～

大仙市立太田北小学校 教諭 高橋 信

株式会社わらび座は、総合アミューズメント企業体として「劇団わらび座」の演劇活動、総合レジャー施設である「あきた芸術村」・わらび劇場・田沢湖ビール等の運営を展開している。その中で、わらび座は北は北海道、南は東京から年間150校以上もの小・中学校の教育旅行を受け入れている。なぜこれほどの学校が学習旅行で訪れているのか、学習プログラムの中の一つである踊り教室に焦点を当てることでその理由が明らかとなった。

⑩

小学校 社会
[県立農業科学館研修]
農業科学館の収蔵品や曲屋を活用した昔の道具体験活動の試み
～小学校3年社会科「古い道具と昔の暮らし」～

羽後町立西馬音内小学校 教諭 鈴木 裕

小学校第3学年社会科の指導単元に古くから残る暮らしに関わる道具について調べる学習がある。農業科学館には古い道具が収蔵されている。また、農家の古民家「曲屋」も移築されている。そうした文化財を観察したり古い道具を体験する活動は有意義だと考えた。そこで、大雄小学校第3学年を対象に体験活動を行った。

ポスター発表 午後

2月9日(金) 13:00~14:00 体育館

<提案のポイント>

⑪

特別支援学校 特別支援教育 学習支援

ローコスト視線入力装置でA君の学習を支援する ～Part 2～

県立秋田きらり支援学校 教諭 高橋 正義

中学部2年生のA君は脳性まひのため体の緊張が弱く、不随意運動が多い。内言語は豊富だが、発声が不明瞭なため、自分が伝えたいことを十分に伝えることが難しい。近年、ローコストな視線入力装置が登場し、瞳孔の動きを視線入力装置でとらえ、パソコンを操作する環境の整備が容易になりつつある。本発表では昨年度から継続してきた本生徒への視線入力装置の導入から文字学習に至るまでの成果と課題を報告する。

⑫

特別支援学校 寄宿舎 生活指導

[文部科学省委託 特別支援教育に関する実践研究事業]

**児童生徒が生活の中で学び、学んだことを生かせる生活指導の在り方
～学習会の工夫改善を通じた歯磨き指導の充実～**

県立比内支援学校 寄宿舎指導員 安保 友希

児童生徒は寄宿舎で何を学び、学んだことを生活にどう生かしているのか、学習会の工夫改善を図りながら、生活指導の充実について考えた。今年度は研究の対象として「歯磨き」を取り上げ、児童生徒が主体的に参加できる学習会の在り方を探った。また、学習会と生活指導とのつながりを明確にし、事後の生活指導を改善してきた。学習会で、何を学び、学んだことが寄宿舎生活に反映されているのかを検証した1年次の取組を紹介する。

⑬

小・中学校 特別活動 道徳

[保呂羽山少年自然の家研修]

**生徒の豊かな心の育成を目指して
～プロジェクト・アドベンチャーと道徳の時間の関連を図った指導を通して～**

湯沢市立湯沢南中学校 教諭 伊藤 純

保呂羽山少年自然の家の活動プログラムであるプロジェクト・アドベンチャー(PA)と道徳の時間を関連させた指導について研究を行った。本研究では「友情・信頼」の内容項目で道徳の時間を行った後、課題解決を図るPAのプログラムを実施し、人との関わりの大切さを実感させる工夫をした。事前・事後のアンケート集計結果と学級担任や生徒の声から、大きな成果を得ることができた。

⑭

特別支援学校 寄宿舎 生活指導

生活自立に向けた個別の「生活実習」の実践

県立栗田支援学校 寄宿舎指導員 朝香由美子

寄宿舎では、生徒一人一人の「自立と社会参加」や「生活技能の向上」を目指した様々な活動に取り組んでいる。その中で、身に付けてほしい力を育てるために、指導方法の再検討が必要ではないかと考えた。そこで、卒業後の社会生活・職業生活を見据え、通常的生活指導に加えた個々に必要な体験や知識、生活技能の向上を図る実践的な取組を「目的別生活実習」として進めた。

⑮

高等学校 理科

高等学校理科におけるがん教育の実践報告

県立秋田高等学校 教諭 遠藤 金吾

秋田県ではがんによる死亡率が非常に高く、重大な課題となっており、がん教育に関する研究や実践に関しても、より一層の充実が求められている。そこで本発表では、発表者のがん教育の実践事例と高校生のがんに対する現状の理解度を紹介するとともに、理科の現行学習指導要領との関連性を分析し、どの単元でどのようながん教育が可能かというモデルプランを提案する。

ポスター発表 午後

2月9日(金) 13:00~14:00 体育館

<提案のポイント>

⑯

小・中学校 特別活動 生涯学習
[県立岩城少年自然の家研修]
生涯学習の拠点としての「岩城少年自然の家」
主催事業に関する考察
～生涯学習における「少年自然の家」の役割と
その有効活用～

由利本荘市立岩城小学校 教諭 中西 郁生

少年自然の家は、これまで自然の中で集団宿泊訓練を行い、青少年の心身を健全に育成する施設として運営されてきたが、平成26年度より「県民の生涯学習の振興に資する」という目的が付加され、生涯学習の重要な拠点となっている。そこで、岩城少年自然の家の特色ある各主催事業の内容や実態を基に生涯学習における「少年自然の家」の役割をまとめ、学校・地域が自然の家をより有効に活用するための手立てと連携の在り方を提言する。

⑰

特別支援学校 特別支援教育 授業改善
[秋田大学大学院研修]
知的障害特別支援学校における自由遊びを中心とした「遊びの指導」についての検討
～教育実践に取り組んだ教師へのインタビュー
調査から～

秋田大学教育文化学部附属特別支援学校
教諭 櫻田 佳枝

知的障害特別支援学校において、自由遊びを中心とした「遊びの指導」の授業実践に取り組んだ教師たちへのインタビュー調査を実施した。その結果、「遊びの指導」における、詳細な計画の立案や具体的な到達目標の設定、短期的評価の難しさ、また、教師の主導性と見守る支援のバランスの必要性が挙げられた。教師が同僚性を発揮し、カンファレンスを通して共通理解を深めたことで、児童のありのままの姿を尊重しながらの実践が可能となった。

⑱

高等学校 数学
**[東京理科大学数学教育研究所主催 第10回《算数／
数学・授業の達人》大賞 入賞]**
S T-F 授業（主体的【S】・対話的【T】で
深い学び【F】に留意した授業）への取組

県立秋田高等学校 教諭 岩見 進

「主体的・対話的で深い学び」の授業への継続的な導入を目標とし、S T-F ボードを開発した。「主体的な活動【S】」、「対話的な活動【T】」、「深い学び【F】」に分割することで授業計画に反映しやすくした。また、授業の流れを「要点の講義」「学び合い」「講義Ⅱ」と分け「深い学び」につながる活用ができています。すべての授業で継続的な導入ができており、うまく整理された板書もできるようになった。生徒からも好評である。